

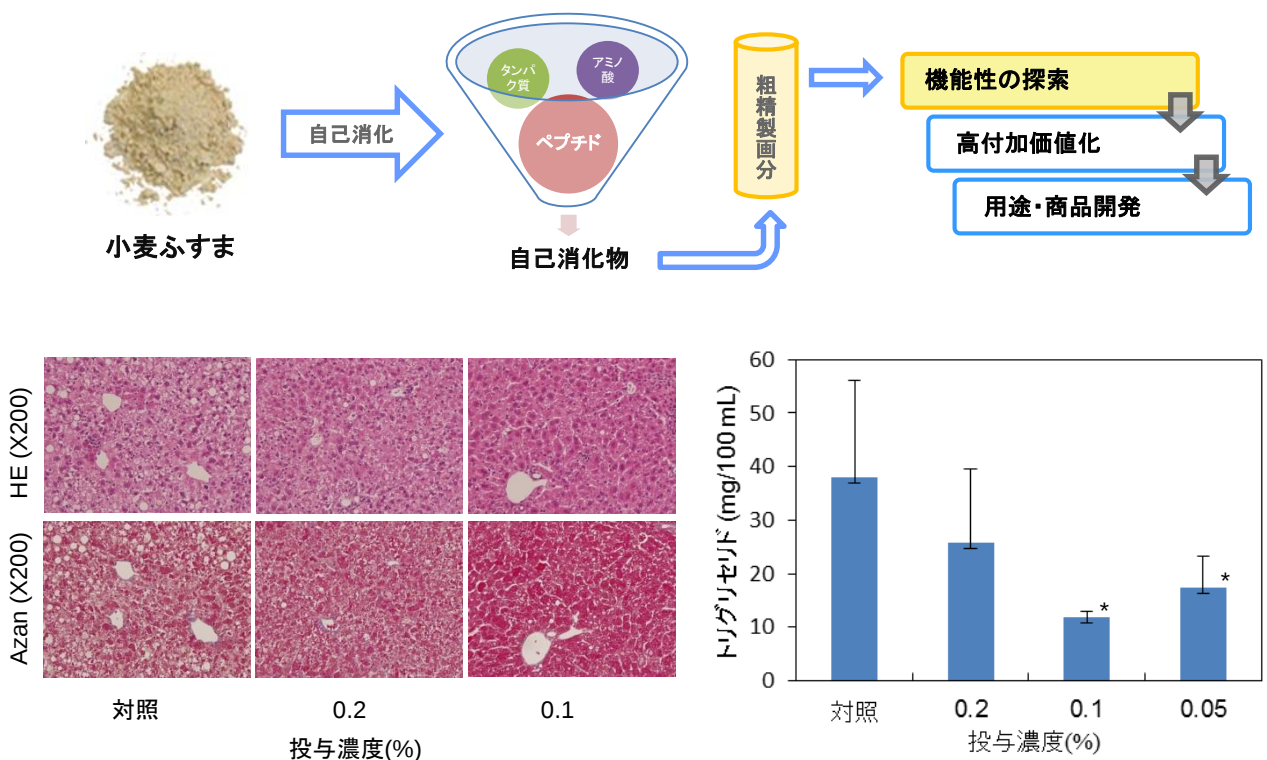
小麦ふすまの利用用途の開発

—ふすま自己消化物のNASHモデルマウスに対する効果—

技術の特徴

- ・ ふすまを水に浸漬し、加温、pH調整すると、内在性酵素の作用によりタンパク質が分解する(自己消化物)。
- ・ 粗精製した自己消化物は、非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)モデルマウスの肝障害を軽減する。
- ・ 粗精製した自己消化物は、高血圧自然発症ラットの血圧低下作用をもつ。
- ・ 自己消化物は、Val-Tyr、Ile-Tyr、Leu-Gln-Pro、Ile-Gln-Pro、Leu-Arg-Pro等のアンジオテンシン変換酵素阻害ペプチドを含む。

研究の内容



NASHモデルマウスの肝組織に対する粗精製自己消化物の効果

摂取量は0.2% (220 mg/kg/d)、0.1% (110 mg/kg/d)、0.05% (55 mg/kg/d)

NASHモデルマウスの血中トリグリセリド濃度に対する粗精製自己消化物の効果

対照群との有意差: * $p < 0.05$

今後の展開

NASHに対する有効成分の特定、および自己消化物の脂質代謝促進作用を検討する。

参 考

T. Ueno, et al. *Journal of Hepatology*, 58(Suppl.), S526-S527 (2013)